2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月４日

上場会社名　寿スピリッツ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　2222　ＵＲＬ　https://www.kotobukispirits.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）河越　誠剛
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役グループ経営管理本部長　（氏名）松本　真司　ＴＥＬ　0859-22-7477
半期報告書提出予定日　2026年11月13日　配当支払開始予定日　2026年12月１日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	39,651	10.8	9,153	23.0	9,236	22.9	6,045	20.5
2026年３月期中間期	35,787	8.8	7,441	△0.5	7,517	△0.0	5,016	0.5

（注）包括利益　2027年３月期中間期　6,080百万円（21.3%）　2026年３月期中間期　5,014百万円（1.2%）

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	39.14	―
2026年３月期中間期	32.49	―

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	60,330	48,755	80.8	315.55
2026年３月期	60,142	47,936	79.7	310.37

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　48,751百万円　2026年３月期　47,931百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	35.00	35.00
2027年３月期	―	10.00			
2027年３月期（予想）			―	35.00	45.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	84,500	7.3	20,550	10.5	20,610	10.0	13,810	10.0	89.42

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）（株）箱根ときのみ、除外　－社　（社名）－

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

② ①以外の会計方針の変更　：無

③ 会計上の見積りの変更　：無

④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	155,658,402株	2026年３月期	155,658,402株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,164,113株	2026年３月期	1,225,366株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	154,459,285株	2026年３月期中間期	154,392,790株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東情勢の不安定化をはじめとした地政学リスクの高まりによる原材料価格やエネルギー価格の高騰に加えて、食料品を中心とした物価上昇を背景に選別消費の傾向が一段と進むなど、依然と先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは２年目となる中期経営目標「Value Up Vision2030」の実現に向け、2026年経営スローガンを「今日一人熱狂的ファンを創る」とし、商品力、売場力、販売力のValue Up、インバウンド対策のValue Up、人財力のValue Upの重点対策の遂行に取り組みました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は39,651百万円（前年同期比10.8％増）、営業利益は9,153百万円（前年同期比23.0％増）、経常利益は9,236百万円（前年同期比22.9％増）、親会社株主に帰属する中間純利益は6,045百万円（前年同期比20.5％増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

株式会社ケイシイシイが2026年４月１日付で株式会社箱根ときのみを100％出資により設立したことに伴い、「ケイシイシイ」としていた報告セグメントの名称を当中間連結会計期間より「ケイシイシイグループ」に変更いたしております。

①　シュクレイグループ

シュクレイグループは、誕生10周年を迎えた「バターバトラー」のイベント展開や「東京ミルクチーズ工場」の15周年記念新商品「クワトロチーズクッキー」の発売など、各ブランドにおいて主力商品を軸に新商品を加え、ブランド訴求力の向上に取り組みました。福岡・長崎エリアでは、2025年12月に誕生した新博多土産「博ったらし」の卸展開や2026年４月には「タンテアニー」３店舗目となる長崎空港店の出店などに取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルでの売場拡大に向け、販売人員の増強や催事展開などに注力いたしました。出退店では、2026年５月に新ブランド「ミリミリ」を伊勢丹新宿店に、新ブランド「博多オリオーリ」を大丸福岡天神店に、それぞれ出店し、また、2026年９月には新ブランド「アイボリッシュ メゾン」をグランスタ東京に出店するなど、４店の出店及び１店の退店を行いました。その結果、売上高は18,050百万円（前年同期比9.0％増）、営業利益は3,280百万円（前年同期比24.2％増）となりました。

②　ケイシイシイグループ

ケイシイシイグループは、「ルタオ」の更なるブランド価値の増大に向け、ルタオ札幌大丸店では限定新作スイーツ「ガレナッティ」の販売強化、また、ルタオ本店では限定商品「ロンドゥミエル」の販売強化など、各直営店において主力商品を軸に新作限定スイーツを順次発売し、ブランド訴求力の向上に取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルを中心に販売人員の増強や新ブランド「岡田謹製茶織屋」による催事展開などに注力いたしました。「ピスタアンドトーキョー」などの首都圏ブランドでは、ブランド認知度を高めるため、期間限定出店に注力いたしました。新規出店では、2026年４月に「岡田謹製あんバタ屋」ルミネ大宮店を出店いたしました。その結果、売上高は11,140百万円（前年同期比8.4％増）となり、営業利益は2,328百万円（前年同期比27.2％増）となりました。

③　寿製菓グループ

寿製菓グループは、主力商品対策及び新商品開発に注力し、主要代理店及び販売子会社への提案営業を推進いたしました。沖縄エリアでは、主要代理店とタイアップしたＯＥＭ展開の推進や自社ブランドのパイナップルスイーツ専門店「ニューキュー」の展開強化などに取り組みました。また、「ニューキュー」２店舗目となる那覇空港店を2026年６月にオープンいたしました。地元の山陰地区では、製造ラインの更新により更に美味しさが増した主力商品「因幡の白うさぎ」を中心に売場提案を推進いたしました。その結果、売上高は9,222百万円（前年同期比13.3％増）、営業利益は2,255百万円（前年同期比26.0％増）となりました。

④　販売子会社

販売子会社は、各販売拠点において主力商品対策及び地域特性にマッチした新商品の発売、インバウンド対策などに注力いたしました。エリア別では、東海地区は、15周年を迎えた主力商品「小倉トーストラングドシャ」の販売強化、関西地区は、新商品「大阪とらさんど」の発売や主力商品「神戸三宮フレンチトーストラングドシャ」の販売強化などに取り組みました。また、福岡地区では、「博多まっかな苺」ブランドの展開強化及び新商品の博多料亭 稚加榮「明太天ぷらせんべい」の販売強化などに取り組みました。その結果、売上高は4,191百万円（前年同期比12.0％増）、営業利益は623百万円（前年同期比31.3％増）となりました。

⑤　その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。売上高は366百万円（前年同期比18.1%増）となり、営業利益は10百万円（前年同期比88.5%増）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①　資産、負債及び純資産の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、60,330百万円となり前連結会計年度末と比べ187百万円増加いたしました。

主な要因は、有形固定資産の増加（1,505百万円）、商品及び製品の増加（169百万円）、受取手形及び売掛金の減少（890百万円）、現金及び預金の減少（781百万円）などによるものです。

負債は、11,575百万円となり前連結会計年度末と比べ630百万円減少いたしました。

主な要因は、未払金の減少（399百万円）、未払法人税等の減少（283百万円）などによるものです。

純資産は、48,755百万円となり前連結会計年度末と比べ818百万円増加いたしました。

主な要因は、配当金の支払いによる減少（5,405百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益計上による増加（6,045百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.1ポイント増加し80.8%となり、１株当たり純資産額は315円55銭となりました。

②　キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ6,781百万円減少し、21,418百万円（前期末比24.0%減）となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、7,200百万円（前年同期比36.8%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前中間純利益9,232百万円、売上債権の増減額889百万円、非資金項目であります減価償却費856百万円の増加要因があった一方、法人税等の支払額が△3,441百万円、棚卸資産の増減額が△208百万円となったこと等による減少要因によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、8,574百万円（前年同期比155.7%増）となりました。

主な要因は、定期預金の預入による支出が14,000百万円、有形固定資産の取得による支出が2,428百万円等の減少要因があった一方、定期預金の払戻による収入が8,000百万円となったこと等による増加要因によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、5,407百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

主な要因は、配当金の支払額が5,405百万円となったことによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、前回公表数字（2026年５月14日付「2026年３月期決算短信」）からの変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,200	31,418
受取手形及び売掛金	8,257	7,366
商品及び製品	3,015	3,184
仕掛品	155	140
原材料及び貯蔵品	889	943
その他	257	282
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	44,775	43,335
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,188	5,276
機械装置及び運搬具（純額）	3,164	3,231
工具、器具及び備品（純額）	520	594
土地	2,885	2,905
リース資産（純額）	14	12
建設仮勘定	606	1,865
有形固定資産合計	12,380	13,885
無形固定資産	141	133
投資その他の資産		
その他	2,850	2,981
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	2,845	2,976
固定資産合計	15,367	16,995
資産合計	60,142	60,330
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,067	2,282
未払金	1,865	1,465
未払法人税等	3,488	3,205
賞与引当金	1,298	1,244
その他	1,383	1,205
流動負債合計	10,102	9,402
固定負債		
退職給付に係る負債	1,882	1,953
その他	220	219
固定負債合計	2,103	2,172
負債合計	12,206	11,575
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,263	1,263
資本剰余金	1,350	1,352
利益剰余金	47,892	48,532
自己株式	△2,842	△2,700
株主資本合計	47,663	48,446
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	94	156
為替換算調整勘定	33	28
退職給付に係る調整累計額	140	119
その他の包括利益累計額合計	267	304
非支配株主持分	5	3
純資産合計	47,936	48,755
負債純資産合計	60,142	60,330

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	35,787	39,651
売上原価	14,261	15,162
売上総利益	21,526	24,488
販売費及び一般管理費	14,085	15,335
営業利益	7,441	9,153
営業外収益		
受取利息	12	31
受取配当金	3	5
受取地代家賃	24	17
受取保険金	24	－
その他	13	32
営業外収益合計	79	85
営業外費用		
減価償却費	1	1
その他	1	1
営業外費用合計	3	3
経常利益	7,517	9,236
特別利益		
固定資産売却益	0	－
特別利益合計	0	－
特別損失		
固定資産除却損	6	3
特別損失合計	6	3
税金等調整前中間純利益	7,511	9,232
法人税等	2,495	3,188
中間純利益	5,016	6,043
非支配株主に帰属する中間純損失（△）	△0	△1
親会社株主に帰属する中間純利益	5,016	6,045

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	5,016	6,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	62
為替換算調整勘定	4	△4
退職給付に係る調整額	△14	△20
その他の包括利益合計	△1	36
中間包括利益	5,014	6,080
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	5,014	6,081
非支配株主に係る中間包括利益	△0	△1

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	7,511	9,232
減価償却費	778	856
貸倒引当金の増減額（△は減少）	0	△0
株式報酬費用	58	72
賞与引当金の増減額（△は減少）	128	△54
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	7	39
受取利息及び受取配当金	△16	△37
固定資産売却損益（△は益）	△0	－
固定資産除却損	6	3
受取保険金	△24	－
売上債権の増減額（△は増加）	1,014	889
棚卸資産の増減額（△は増加）	△636	△208
仕入債務の増減額（△は減少）	△100	214
その他	△235	△411
小計	8,489	10,595
利息及び配当金の受取額	12	46
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△3,262	△3,441
保険金の受取額	24	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,263	7,200
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,000	△14,000
定期預金の払戻による収入	1,000	8,000
有形固定資産の取得による支出	△1,240	△2,428
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	△37	△11
有形固定資産の除却による支出	－	△0
敷金及び保証金の差入による支出	△23	△75
敷金及び保証金の回収による収入	20	4
その他	△73	△63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,353	△8,574
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△300	－
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2	△2
自己株式の取得による支出	－	△0
配当金の支払額	△4,939	△5,405
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,242	△5,407
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,322	△6,781
現金及び現金同等物の期首残高	25,081	28,200
現金及び現金同等物の中間期末残高	21,758	21,418

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	シュクレイグループ	ケイシイシイグループ	寿製菓グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	16,010	10,122	5,663	3,681	35,477
セグメント間の内部売上高又は振替高	553	150	2,478	59	3,241
計	16,563	10,272	8,141	3,741	38,719
セグメント利益	2,641	1,830	1,789	474	6,736

	その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
売上高				
外部顧客への売上高	310	35,787	－	35,787
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3,242	△3,242	－
計	310	39,030	△3,242	35,787
セグメント利益	5	6,742	698	7,441

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、損害保険代理業、健康食品事業、並びに海外（台湾）における菓子事業が含まれております。

２．セグメント利益の調整額698百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額1,148百万円、セグメント間取引消去額15百万円、棚卸資産の調整額36百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△501百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	シュクレイグループ	ケイシイシイグループ	寿製菓グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	17,689	10,955	6,488	4,151	39,285
セグメント間の内部売上高又は振替高	361	184	2,734	39	3,320
計	18,050	11,140	9,222	4,191	42,605
セグメント利益	3,280	2,328	2,255	623	8,487

	その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
売上高				
外部顧客への売上高	366	39,651	－	39,651
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3,320	△3,320	－
計	366	42,972	△3,320	39,651
セグメント利益	10	8,497	655	9,153

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、損害保険代理業、健康食品事業、並びに海外（台湾）における菓子事業が含まれております。

２．セグメント利益の調整額655百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額1,259百万円、セグメント間取引消去額13百万円、棚卸資産の調整額３百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△620百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社ケイシイシイが2026年４月１日付で株式会社箱根ときのみを100%出資により設立したことに伴い、「ケイシイシイ」としていた報告セグメントの名称を当中間連結会計期間より「ケイシイシイグループ」に変更いたしております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。